

競争の構図と政府の役割

～ 「情報経済・産業ビジョン」予告
I S E D コメント用メモ～

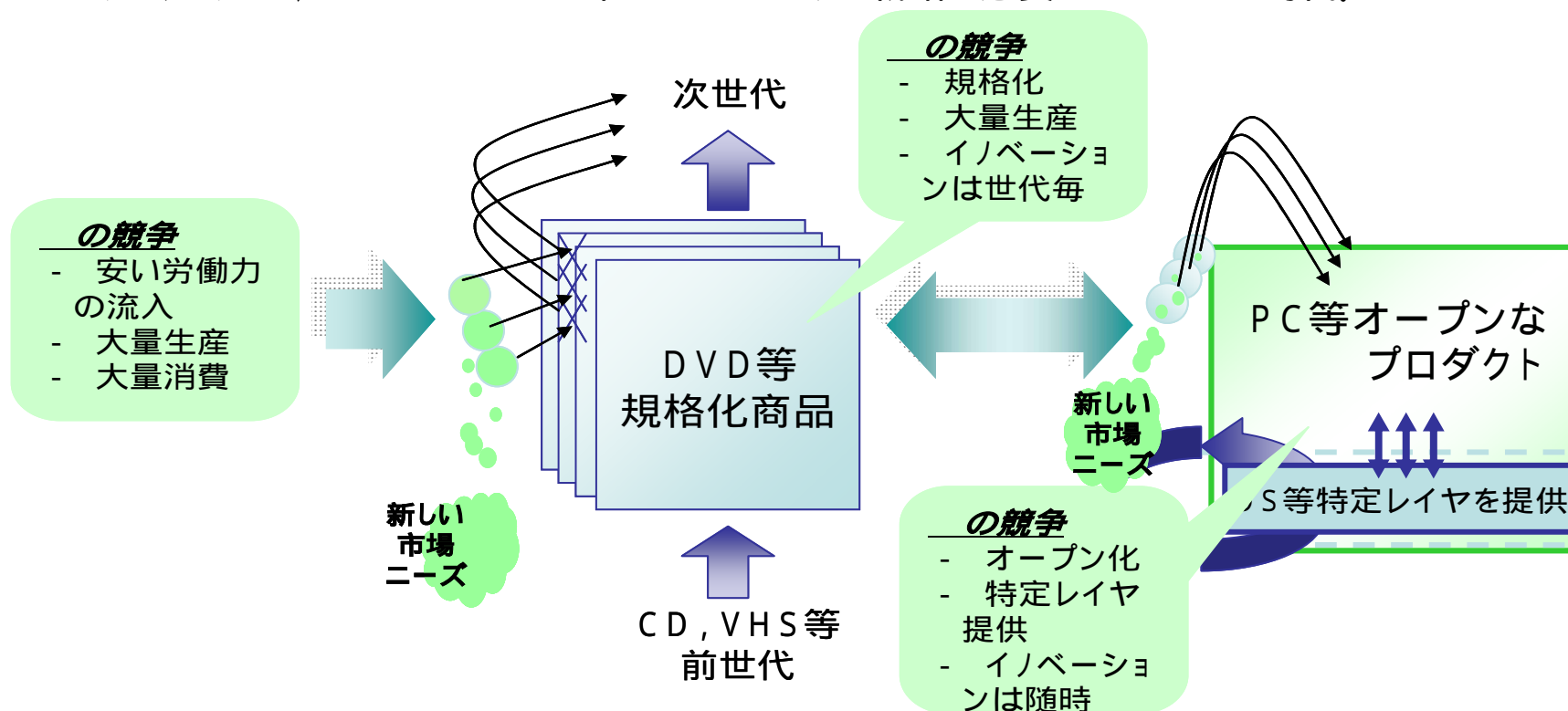
平成17年4月9日
経済産業省 村上

IT市場の競争段階

安い労働力の流入を前提に規格化商品の大量生産・大量消費を実現
 技術革新とその成果の規格化で独占的競争を展開
 知識の囲い込みにより革新性の早さを競うスピード競争を展開

「ものづくり」にとって、「規格化」の競争への戦略、すなわち、技術革新の成果を規格によって固定化し、国際的にも量売り抜くことは基本的に必要。

他方で、「オープン化」の競争への戦略、すなわち、一部のレイヤーの技術を独占し、その上で提供されるサービスのアプリケーションのレイヤーでは他の事業者等から「知恵」を貰う形で知識の囲い込みを進め、イノベーションの早さで差をつける戦略も必要とされている時代。



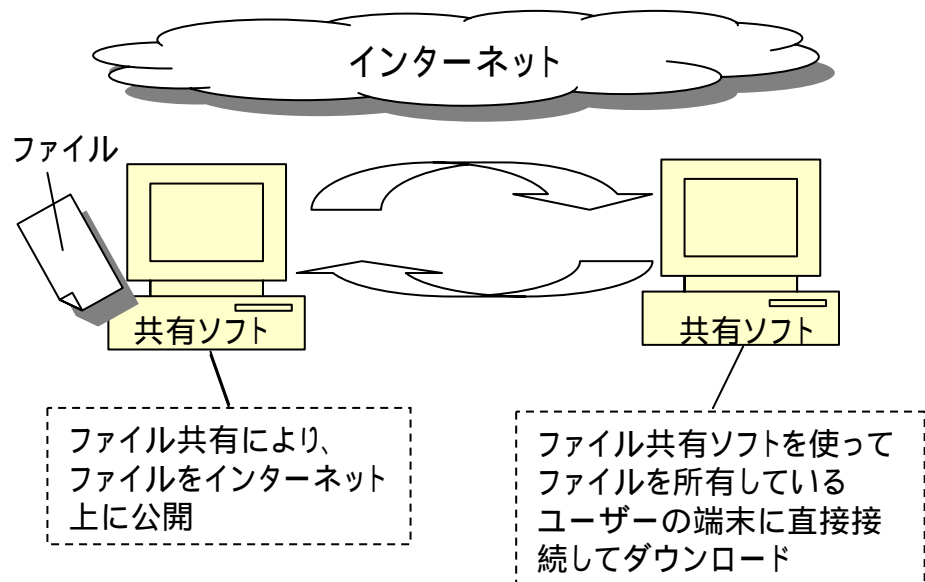
個々の「ローカル・ハイエンド」の市場では、消費者自身の積極的な参加と貢献に支えられた **End to Endのビジネスモデルが既に始動**。これらを、既存のIT産業の事業活動の展開に有機的に結びつけ、新たなIT産業の将来を切り拓くことが必要。

こうした動きをリードしていく上では、次スライド以降にあげる「タテの連携」と「ヨコの連携」の二つの課題の解決が必要。 => **産消逆転のために「プラットフォーム」を作る**

例1:P to Pアプリケーション

近年、特定のサーバや通信事業者を介さずに、ユーザーの端末同士がインターネット上で直接相互連携しデータを双方向でやり取りするP to Pアプリケーションが登場。

《P to P型アプリケーションの仕組み》



例2:バモスホビオ・トラベル・ドッグバージョン

愛犬家のユーザーに向け、様々な情報提供・交換が行えるようトラベルドッグというサイトを構築。サイトに参加しているユーザーの意見を生かしたトラベルドッグ・バージョンという車種を商品化。

《トラベルドッグ サイト》



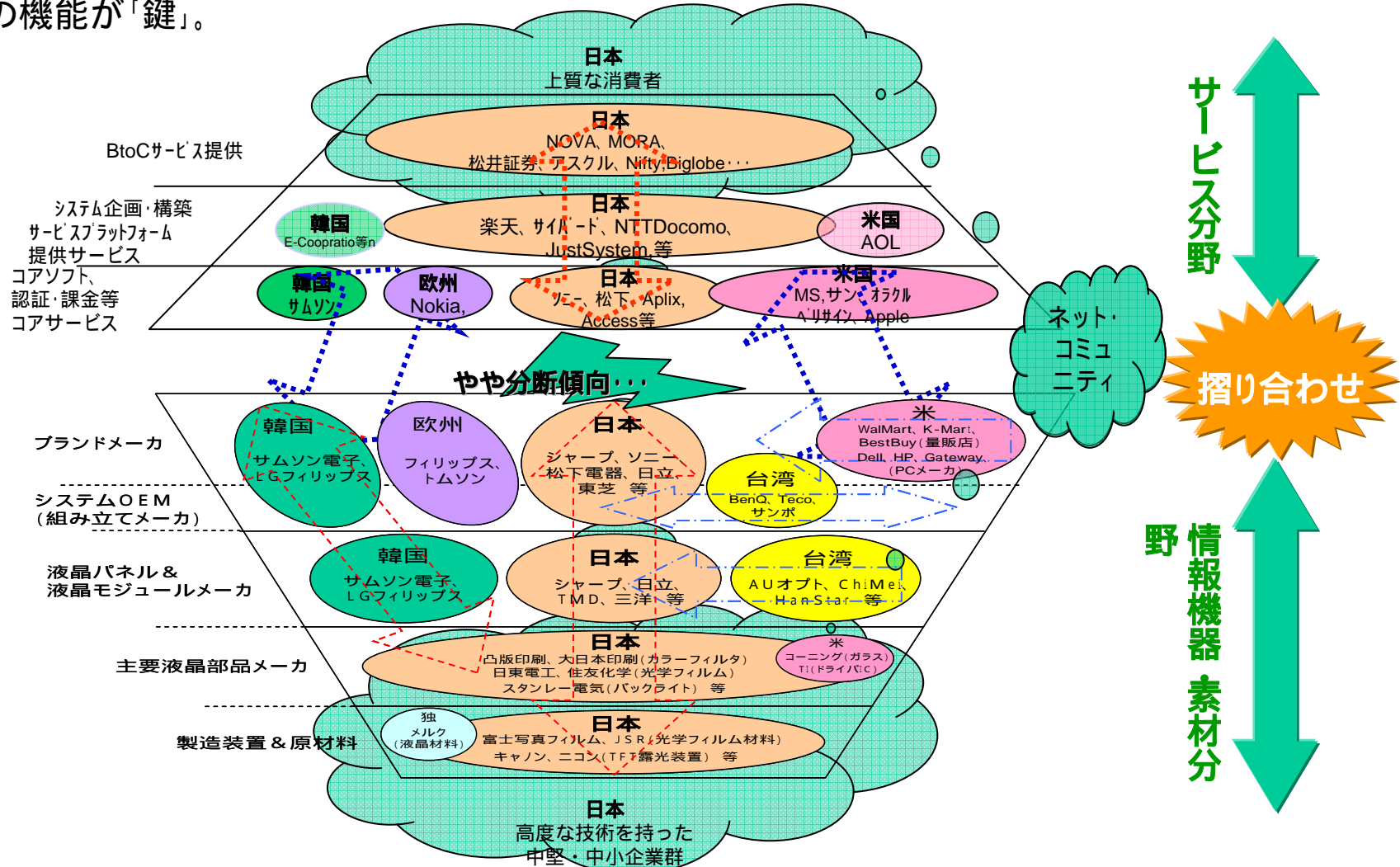
ユーザーの意見を踏まえて製品化



(<http://www.travel-dog.com/>)

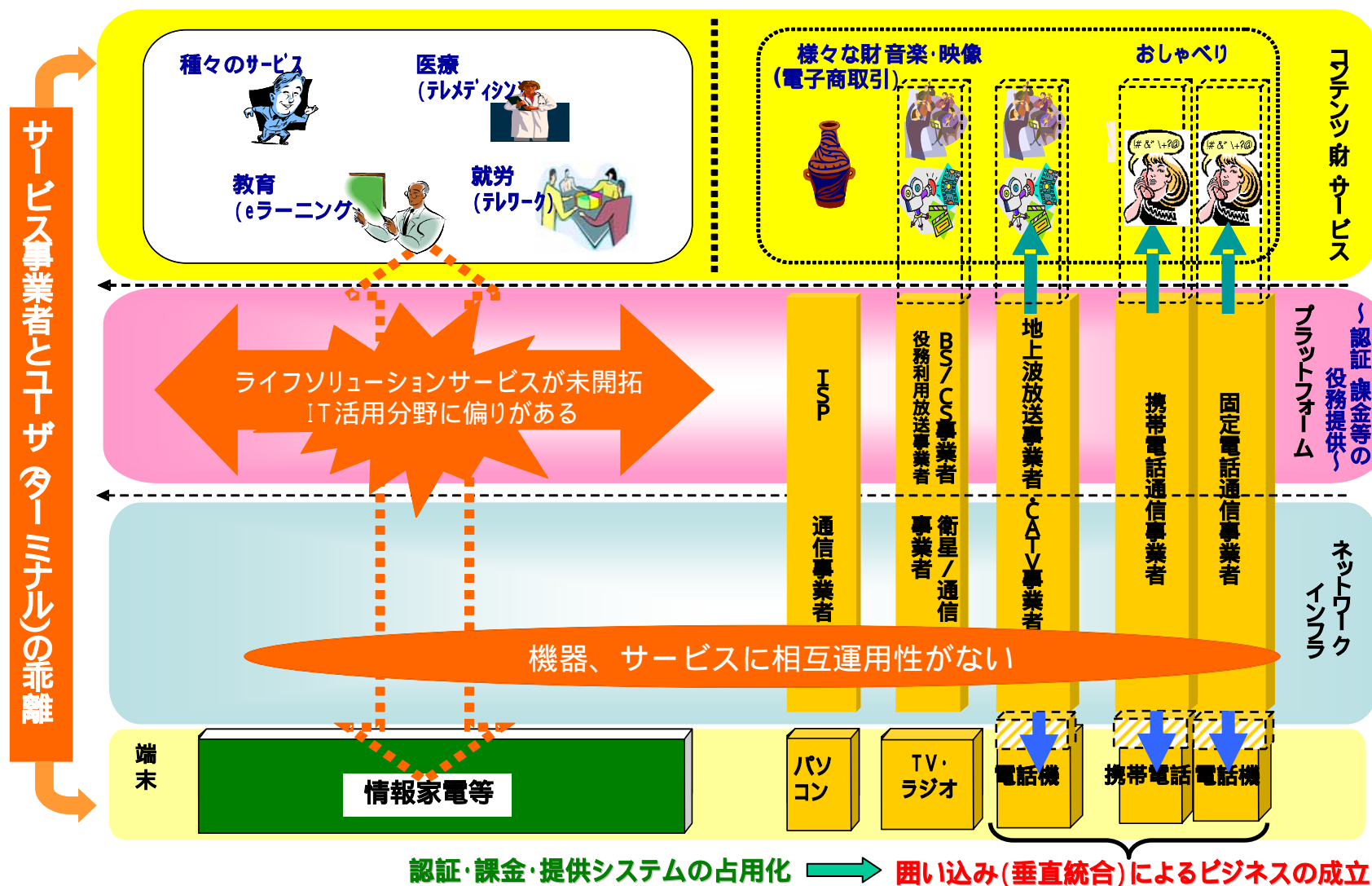
「プラットフォーム」の課題：「タテ」の連携不足

教育・医療・生活安全など生活上の様々な課題に具体的解決をもたらす「ライフ・ソリューション・サービス」が展開していくと見通されており、その円滑な展開のためには、情報通信機器・素材と様々なサービスとの間の「上下」市場の「分断」構造をつぎ直すこと、すなわち「プラットフォーム」の機能が「鍵」。



「プラットフォーム」の課題：「ヨコ」の連携不足

「ライフ・ソリューション・サービス」の円滑な発展のためには、様々なプレイヤーが参入しやすい市場を作っていくことと、様々な機能面で相互運用性を持った形で拡がりのある「プラットフォーム」が形成されること、これを支えていくことが不可欠。



「ネットワークセントリック」。(「標準論争」は仮の姿)

～スモールワールドネットワークのインテグレーション?～

- 乗った方が得だと思わせる何かがある。しかも積極的に外部にアクセスを認めることでネットワーク外部性を解消している。
- 潜在的な貸し借り関係の連鎖。ただし、全体は見えない。
 - = > ミッション設定がアーキテクチャを決める。
- その輪が少しずつ成長する。する？

縦に「摺り合わせる」+ 横に「寄り合わせる」

- 縦の摺り合わせに横の寄り合わせが加わることで、モジュールが知識資産として再生産可能な構図が出来る。そのプロセスを経ることで、単なる情報が知識へと脱皮し、知識に資産性を加える。
- そのため、以下の二要素を備えたプラットフォームの形成が不可欠。
 - ✓ 情報に共通の意味づけを与える
 - ✓ 情報の信頼性を担保する
- 「縦」と「横」のブレークスルーを引っ張る動機付けは何か？

狙い : 「品質」から「信頼」へ。国内から国際へ。

- 信頼性の高い「プラットフォーム」を基盤に、生活、産業、行政各分野でソリューションサービスを実現することで、「品質」を鍵とした産業社会から、「信頼」を鍵とした産業社会へと脱皮させる。
- 安全を安心に。それは「安全」に得意な日本の強みを活かすこと。高信頼なプラットフォームを地球の果てまで広げることでダイナミズムを得る。世界のイノベーションリーダーに日本になる。

アプローチ : 設計主義でもなく、自由放任でもなく。では、何？

➤ 全体の構図の「可視化」・「見える化」

- ✓ ミッションと評価の場を設定する
- ✓ E A と参照モデルの開発・普及
- ✓ プロセス成熟度の向上

➤ タテの連携、ヨコの連携を円滑化させるための環境整備

- ✓ 「メートル原器」の再設定
- ✓ ヒト、モノ、カネの流動性の確保。「信託」エージェント。

➤ 「プラットフォーム」形成に向けた政策的コーディネート

- ガバメントリーチがあるフィールドは自分で作りに入る。PPP
- 制度改正を含め、そのミッションに積極的にコミットする
- ヒト、モノ、カネのベースをしっかりと作る。特に、エンジニアリング。

目標：4分野と目指すべき「5つの方向性」

ITの活用による「強さ」 - 競争力・課題解決力の強化・向上 -

IT活用が合理化、効率化を超え、個人・社会においては課題解決力の強化、企業・産業・経済においては競争力・革新力の向上をもたらすことがIT化の新たな段階での目標。

このため、4つの「中間目標」を見込むとともに、「強さ」を加速的に実現。

【強さの追求】 ITユーザの競争力・革新力・課題解決力の強化

IT投資の質・量両面での支援
ITを活用した社会的課題の解決 など

生活分野 (ライフ・ソリューション)

ビジネス分野 (ビジネス・ソリューション)

行政分野 (ガバメント・ソリューション)

社会的課題分野 (ソーシャルシステム・ソリューション)

【新たな担い手の確立】

「ITプラットフォーム
産業」の活躍

「ITプラットフォーム産
業」形成支援

【広がり追求】

アジアへの広がり追求

アジア情報先進国を中
心とした情報家電のネット
ワーク化
アジアワイドな標準化、
人材育成、プラットフォーム
形成

【利便性の確保】

ユビキタスなIT利用環境
の整備

ユビキタスなITインフ
ラを世界最高水準に維
持・向上

【安心の追求】

信頼という資産への
集中投資

民間のセキュリティ対
策の確立の加速化